

外国人介護職員の国家資格取得に向けたニーズと課題に関する検討

柳 久子 ●筑波大学 医学医療系 保健医療学域 福祉医療学 准教授



国境を越えた協働が創り出す未来

要旨

我が国の介護は日本人の手で担うものとし、そのために人材の処遇改善等の推進に焦点をあてる、国内施策のみの展望は厳しい。今後より一層の拡充が見込まれ、その確保と育成に対する緊切かつ適切な対応が求められているのが、外国人介護人材である。本研究は、外国人介護人材の安定した就労を推進するため、本邦にて介護福祉士国家取得を目指す外国人介護職員の有する、実践的育成上のニーズと課題を多角的に分析することを目的とした。

分析の結果では、「定着のための就労・教育支援の課題と背景」を中核カテゴリに、10のカテゴリと30のサブカテゴリが抽出された。

受け入れ施設職員から見る外国人介護職員の国家資格取得に向けたニーズと課題は、受け入れ体制に係る研修面や実務面を基幹に、人種差別問題や健康課題、外国人労働者としての生活面や文化面の相違に至るまで、多様な要因が背景にあることが示唆された。

これら課題への取り組みは、我が国で差し迫る2025年問題をはじめとした介護職者の需要の伸びと不足の対応のための課業を導くものと言える。

1. 背景と目的

介護に携わる人材の不足は深刻である。今後益々の拡充が見込まれる外国人介護職者の安定した就労を推進することで、介護福祉領域における人材不足問題の解消へとつながることが予測できる。しかし、2008年に締結した、日本の国家資格の取得と長期的就労の継続を趣旨とする経済連携協定[Economic Partnership Agreement(以下、EPA)]に基づく介護福祉士候補者(以下、候補者)の介護施設への定着率は低く、課題も多い。

申請者らは先の調査研究で、候補者の教育支援や就労継続に関するニーズ・課題を明らかにするため、社会福祉施設にて就労・研修する介護福祉士国家試験の受験者を対象に面接を実施した。その結果、教育支援や就労継続に関するニーズや課題は、研修面と就労面の両方にまたがって多様なこと、外国人である候補者の権利保障に関わること等が考えられた。

しかしながら、これらはEPAに基づく介護福祉士に限定されたデータの分析であり、候補者の受ける教育支援についての課題やニーズがなぜ起生するのかを、受け入れ施設側からの視点を含めた分析にはいたっていない。したがって、本研究では、受け入れ施設側の職員を対象に追加調査を行うことにより、外国人介護職員の有するニーズと課題を多角的に分析することを目的とした。

2. 活動の方法

研究協力者へは、予め質問調査票を渡し、項目に沿った回答を依頼した。協力者の都合日時に合わせて施設を訪問し、質問票に基づ

いた半構造化面接を行った。

データの解釈にあたっては、我々のこれまでの調査研究により得られたデータを見ながら、幾通りかの解釈を再分析した。具体的には、分析によって生成した概念に基づき、theoretical samplingを用いた対極と類似の両方向での比較により、新たなデータを求めるグラウンデッド・セオリー・アプローチの継続的比較分析を援用した。

3. 現状の成果・考察

研究協力者8人の面接に要した総時間数は6時間1分で、1人あたりの面接時間は平均45分、全データの文字数は7万5991字であった。

1) 外国人介護職員の国家資格取得に向けたニーズと課題の背景にある要因

継続的比較分析から得た結果を図1に示す。「定着のための就労・教育支援の課題と背景」を中核カテゴリに、10のカテゴリ、30のサブカテゴリが抽出された。受け入れ施設職員から見る外国人介護職員の国家資格取得に向けたニーズと課題には、受け入れ体制に係る研修や実務を基幹に、人種差別問題や健康課題、生活面の支援や人的資源活用に至るまで、多様な要因が背景にあることが示された。

2) 外国人介護職員の定着への期待度と他のカテゴリとの関連性

すべての対象者の中で、外国人介護職員の定着について、高い期待を語った日本人職員は2人であった。一方で、定着に関する期待度が低く、「促進の必要はない。無理だと思えますよ」のように明らかな諦観を語った日本人職員は3人であった。今回、この5人の研究協力者の語りに着目し、再度データシートからカテゴリ・サブカテゴリ間の関連性を分析した結果を図2に示す。

定着に高い期待を抱く対象者の語りには、表1のように候補者を個人として見ている特徴があり、支援方法を模索する中にも出口を

図1 グラウンデッド・セオリー・アプローチ継続的比較分析の結果

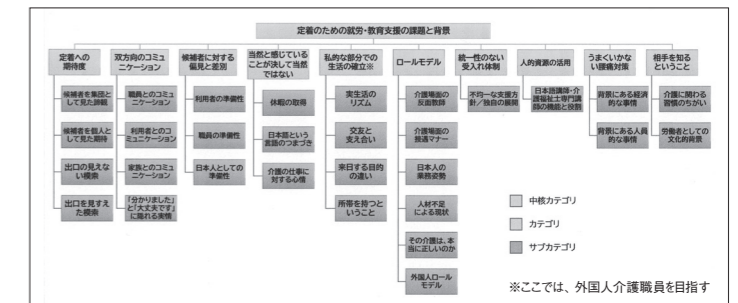


図2 カテゴリ・サブカテゴリ間に見られた関連性

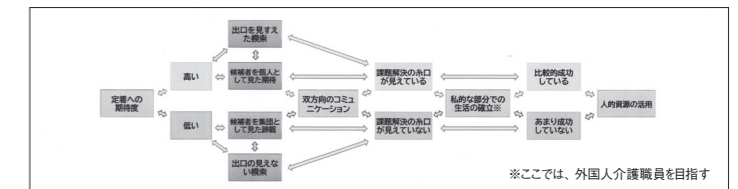


表1 候補者を個人として見た期待におけるデータシート

候補者を個人として見た期待	僕も関わる前は外国人って懸念することはあったのですが、本人と関わる中で、本当に素晴らしいって、会ってみて本当に話せないのは損だなんて感じることもありました。そういった人たちが本当に日本に残ってくれるということであれば、私たちがそれに伴った努力をしなければいけないのかなあ。日本人だから外国人だからじゃなくて、1人の人として接していけたらいいと思っていますので、それが職場全体、会社全体に浸透できればいいなと
---------------	---

見ずえた発言が多く含まれた。また、コミュニケーションにおいて生じる課題に対しても解決の糸口を見出していることがうかがえ、候補者の生活面の自立支援や教育担当者等の人的資源活用においても、成功していることを示す事項が多く抽出された。

一方、定着への期待が低く、明確な諦観を抱く対象者の語りには、コミュニケーションをはじめとした支援における模索の中に、出口を見出せていない特徴が認められ、候補者の生活面の支援や教育担当者等の人的資源活用に対しても、複数の課題を抱えている傾向が示された。

4. 今後の展望

対象者数が少なく、信頼性と妥当性における課題が残る。今後は、候補者への研修支援に関わる様々な職種を対象に含めた調査を行い、因子探索の精度を向上させていくとともに、研究協働者との連携の中で、具体的な介入方法を検討していく。